

## Episode 2

## CONCEPT

# 「場所を見て決めようということになって、ロケハンに行ったんです」

「ちょっと待って、良いんじゃないのってなって」



CD 作りがインディーズっぽくないんですよ。すごく計算されているというか。敢えて指定のロケ地を外して、挑戦的な感じもして。  
 宮原 確かに挑戦的な部分はあったと思います。規定から外れた所で撮りたいというのもあったし。  
 シュ 物語はどんな風に生まれたんですか？

宮原 最初は自由にアイデアを出し合っていました。愛川レッドカーペットに応募しようとなってから何案か持ち寄ったんですが…モノを書くより、場所を見て決めようということになって、ロケハンに行ったんです。

岡戸 ダムとか…ソーラーパークとか…滝とか…

シュ 行ったんですか（笑）

岡戸 すごく良い所がいっぱいある町だなと思って（笑）

宮原 小沢バス待合所には、昼食の前に偶然クルマで通りかかったんです。ちょっと待って、良いんじゃないのってなって。ここを生かした物語を何案か考えようと。

岡戸 考えていたのが、企業のウェBCMみたいな。物語があるCM。

宮原 バス待合所に忘れ物があって、その忘れ物を通じて男女が仲良くなっていくようなスロットも作ったんですが…ちょっと待て、制限時間5分じゃん。5分でその深さが描けるのか、ひっきりが分かりやすいものを作ったほうがいいんじゃないかって話になったとき、マッチングアプリのアイデアが出て、これ題材にできないかって。

岡戸 最初の脚本では、幼馴染だけど自分とは正反対の子と、アプリで知り合って会ったことはないけどフロア上の趣味が合っている子だったら、どっちがいいのかっていう物語を考えていました。でも、もっと単純に、アイちゃんとの待ち合わせに行ってみたら、マユミが来て焦ったカズビデっていう物語の方が、ライトにみえていいかなと。核になる部分は外して、今の脚本になりました。

宮原 「愛」にまつわる議論はしたんですが、明確な答えには辿り着けなかったんです。だから、「愛」を語るというか、自分たちの世代的な「愛」を上手く描けたらいいかなって思いました。

岡戸 マッチングアプリも実際にやったことがあったりして。

シュ それは、題材にすることを決めた後に？

岡戸 いやいや、前からです（笑）

シュ え（笑）

岡戸 知り合いにアカウントが見つかったことも実際ありまして（笑）

シュ 経験が反映されていたとは。

岡戸 恥ずかしい思いをペイするみたいな（笑）

CD タイトルワークもステキでしたね。

岡戸 編集も始まって、いよいよタイトルを付けなきゃなって、チームのLINEグループに自分で案を投げては、やっぱり違うなと自分でツッコんでを繰り返してました。

シュ どんな案があったんですか？

岡戸 撮影段階では、「JUNCTION（仮）」って感じで、それを核にした案が多かったんですけど、マッチングアプリが題材だと思いつきまして。出した瞬間はダジャレっぽいかな、でもやっぱりコレ良くない？てなって。

宮原 突っ切りました。そこが功を奏したかなと。

CD TOO MATCHって、MATCHが多すぎだよってなるけど、TOOが2人とか色々な深みがある、良い造語ですよ。

宮原 よく思いついてくれたなあ（笑）



TOO MATCH 監督  
宮原 拓也（みやはら・たくや）

1992年生まれの26歳。東京都出身。大学在学中は、本格的にバンド活動に打ち込む一方、学園祭のPR動画や落語研究会関連の動画、アイドルのMVなどを制作。本作「TOO MATCH」で初めて本格的なショートムービーを制作した。普段はフランディング系企業に勤める会社員で独身。好きな映画監督はエドガー・ライト。趣味は川沿いを散歩することで、特に好きなのは目黒川沿い。中津川沿いの散歩も、割と早くしてみたい。

「ダジャレっぽいかな、でもやっぱりコレ良くない？」